

畜産部門では、生乳生産は生産者戸数の減少もあって3万3,975トン（前年度比0.7%減）となった。

枝肉価格は、コロナ禍の影響によって安価で推移し、販売金額は55億3,056万円（9.1%減）だった。

経常利益は3億2,448万円を計上。当期末処分余剰金は3億942万円。

総会は書面議決を中心に開催。議案3件を可決した。任期満了に伴う役員改選では、宇野組合長を再任した。

新事務所完成「畜産センター」新設 J A士幌町90周年

2021年11月21日

J A士幌町（士幌町士幌西2線159、國井浩樹組合長）の本部事務所の新築落成と創立90周年を記念する式典が、21日午前10時から本部事務所2階の大ホールで開かれた。組合員ら関係者約320人が出席し、新事務所の完成と90周年の節目を祝った。

「農業会館」と称した旧事務所は1971（昭和46）年に建設され、今年で50年。すでに取り壊され、跡地は駐車場に。新事務所の敷地面積は3万2,965平方メートル。建物は2階建てで、建物面積5,937平方メートル、延べ床面積は8,059平方メートル。酪農・肉牛事業を支援する部署「畜産センター」を設けたほか、庭園を眺められるラウンジや待合ホールが設けられ、ゆったりした空間が広がる。

國井組合長は90年の歩みを振り返り、「農村理想郷であるユートピアの創造を目指し、組合員と一丸となってまい進していきたい」とさらなる発展を誓った。

十勝地区農協組合長会の有塚利宣会長、小林康雄士幌町長（高木康弘副町長代読）らが祝辞を述べたほか、組

合運営に功績のあった組合役員や永年勤続者らに賞状が手渡された。



落成式が開かれたJ A士幌町の新しい本部事務所の建物

農業経営

19年離農 十勝35戸 農地は90.5%処分

2021年5月29日

全道平均84.5% 60歳以上、体力的理由多く 道農政部調査

道農政部は、2019年に離農した農家の保有農地に関する権利移動の状況調査の結果をまとめた。十勝の離農戸数は前年より10戸少ない35戸。保有していた708.8ヘクタールのうち、貸し付けなど年内に処分された農地は90.5%で全道平均（84.5%）を上回った。

離農した農家の経営形態や規模、離農の理由を把握するほか、今後の農地の利活用に生かすために調査している。調査対象は19年の1年間に離農した農家の農地。

19年の離農戸数は全道で596戸（前年比15戸減）。離農時に保有していた8,760.5ヘクタールのうち、7,404ヘクタールが処分された。処分農地のうち80%ほどは個人や法人農家に、残る20%は農地中間管理機構（農地バンク）などに引き受けられている。

離農した596戸の振興局別内訳をみると、上川（167戸）、空知（136戸）などが多い。十勝は35戸で、規模を考えるとそれほど多くない。

保有していた農地の処分率は、離農が比較的少ない留

萌（離農9戸、処分率99.6%）、桧山（同12戸、98.5%）で高かった。十勝（90.5%）を含む9振興局管内の処分率が90%以上となっている。

離農した農家を経営形態別でみると、稲作が41%、畑作が34%、酪農が16%となっている。酪農は1戸当たりの離農面積が40ヘクタール近くと、経営形態別では最も大きい。経営していた面積別では、10ヘクタール未満が62.6%、10～20ヘクタールが28.7%で、全体の9割を占めた。

離農農家を年齢で分けると60歳以上が80%。離農理由は「体力の限界」「本人や家族の健康状況」が多かった。十勝の平均の離農年齢は65.8歳。